



号 外

2021年  
5月15日

国賠同盟  
鳥取県本部

〒682-0701  
鳥取県東伯郡  
湯梨浜町宇野  
1689  
竹中寿健  
0858-35-3955

### 中国5県活動交流会議報告

4月5日(土)岡山県の岡山民主会館において「中国5県活動交流会議」が開催され、鳥取県から竹中会長と東部支部の石川さんが参加されました。またこの会議には中央本部の田中幹夫事務局長が参加されていました。

この会議の大きな目標は、中央本部が提起した、4月1日～5月31日を「国賠躍進月間」として、どう取り組んでいくかの交流でした。

一、会員拡大、①2万人の組織建設、②請願署名の自主目標の達成、をどう進めるか。

二、「伊藤千代子の生涯」制作、上映運動の現状など。

交流会の中で、鳥根県の署名活動が報告され、浄土真宗のお寺に40軒要請し署名に協力していただいた。また、伊藤千代子の本を110冊販売した活動など、工夫を凝らした活動などが報告され、交流しました。

皆さんのご意見をお待ちしています。鳥取県の国賠同盟運動を進めるためにも、皆さんの投稿をお願いします。

会員拡大では、新しくできた「入会のすすめ」チラシを活用し、拡大を推進する(こ)などが話し合われました。(記 竹中)

### 鳥取県国賠同盟

東部・中部・西部支部 各位

「不屈562号」と新チラシ『入会のすすめ』をお届けします。

中央本部は、4月1日～5月31日の間を、会員拡大の特別期間として提起されました。

この期間、可能な限り全力での拡大の取り組みをお願い致します。『入会のすすめ』新チラシを大いに活用してください。

1、私たち自ら、再度、歴史認識を含めて、運動の原点等を学ぶ。

2、『入会のすすめ』新チラシを活用していただき、仲間を増やしていく活動を大いに進めてください。

会員拡大は、380名が目標です!

全会員の奮起をお願い致します!

### 「伊藤千代子の生涯」 講演会の延期について

5月9日(日)に倉吉体育文化会館において、「伊藤千代子の生涯」上映運動支援のための記念講演会を予定していましたが、最近、倉吉・中部地区でコロナ感染が広がっており、この状況での開催は困難であると本日の常任委員会で判断し、開催の延期を決定致しました。

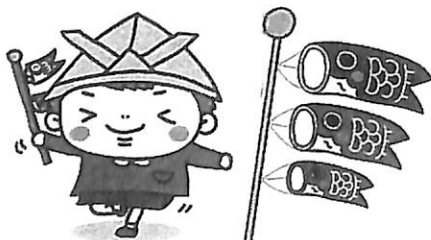
講演会は、コロナの感染状況を見て開催することになりました。参加していただくよう呼び掛けさせていただきましたが、まことに申し訳ありません。講演会開催のときには、多くの皆様のご参加をお願い致します。

なお、4月1日～5月31日まで同盟躍進期間として、組織拡大、署名活動を重点に運動を進めています。  
「一人でも多くの会員を!」

「署名を住民の皆さんから一筆づつ!」

「協力よろしく

お願い致します。



支部活動報告

\*県本部 4/27 常任理事会。中国5 県活動交流会の報告。「伊藤千代子」の 後援会を、中部地区でのコロナウィルス 蔓延により延期と決定。署名の最終集計 結果を確認、翌年度の取り組みを論議す る。同盟躍進月間で新チラシ『入会のす

すめ』を使って会員拡大を進め ることを申し合わせる。2021 年度の県本部大会の準備につい て話し合う。

\*西部支部 4/14 理事会。 署名の最終集約を行う。

2021年4月30日現在

会員拡大

	目 標	前月到達	当月実績	当月到達
東部支部	190	135	2減	133
中部支部	40	29	1減	28
西部支部	150	99	0	99
合 計	380	263	3減	260

個人署名 (前国会請願以降)

	目 標	前月到達	当月実績	当月到達
東部支部	3700	565	37	602
中部支部	300	269	5	274
西部支部	2000	398	231	629
合 計	6000	1232	273	1505

団体署名

	目 標	前月到達	当月実績	当月到達
東部支部	150	19	1	20
中部支部	30	5	0	5
西部支部	150	18	29	47
合 計	330	42	30	72

大根島の由志園の咲き誇る牡丹



政局や世相をチクリゴリーしちごー

奥山 春雄

認可の無いゼネカワクチン買うの怪 五輪観客子供動員三密都 しまねよりしのはいよせてくるけは

新チラシ『入会のすすめ』

4月1日〜5月31日は国賠同盟躍進 月間です。『入会のすすめ』新チラシを使 った、大いに会員拡大を進めましょう。 『入会のすすめ』には、 「平和と人権の世界をめざして」として、 国賠同盟の活動が6点載っています。

①憲法改悪、秘密保護法、共謀罪新設、集 団自衛権行使容認など治安維持法の復活 の危機に反対する運動を進めます。

②治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を求 める署名運動に取り組み。

③機関紙「不屈」(月間)を発行。全会員 に届けています。運動理論誌「治安維持 法と現代」(年2回発行)。

④弾圧の歴史を語り継ぐために、シンポジウムの開催や、 犠牲者の顕彰活動を行っています。

⑤戦後補償を求める活動をはじめ、ジェン ダー平等の実現をめざして諸団体と共同 して運動を進めています。

⑥国際人権活動日本委員会の構成員とし て国連に要請するとともに、侵略戦争の 実態を見学するツアーや国際的な交流に 取り組んでいます。

また、「治安維持法とは…」の説明や「治

安維持法犠牲者に国家賠償を」として、日 本弁護士連合会人権擁護大会(1993年 10月)での基本報告が載っています。 また、おもて面では、

日本政府は侵略戦争を認め、全ての犠牲 者に謝罪と賠償を!

―ふたたび戦争と暗黒政治を許さないた めに―

戦前、過酷な弾圧に抗して戦争反対・主 権在民を主張してたかった先人たちの 運動を顕彰し、その名誉回復のための活動 をしています。これは、日本が侵略戦争を 推し進めて人道に反する数々の罪を重ね たことをいまだに反省しない政府の認識 を転換させ、ふたたび戦争と暗黒政治を許 さないたたいです。いますすめられている 憲法改悪や「戦争する国づくり」の動き を絶対に許すことはできません。

また、「世界各国の犠牲者への保障」や、 「治安維持法関連年表」なども紹介されて います。

新チラシ『入会のすすめ』を大 いに利用・宣伝し、新会員の入 会をすすめてみましょう!

目指せ、380名会員!

シリーズで掲載していましたが「北満帰行」の 中で、幼くして家族とともに満州に移住した 弟さんの手記を紹介いたします。

第二の故郷

北安省第八次依吉密開拓団

「アツ、舟がある」と弟がさげんだ。 「そうだよ、これが依吉密川で、これを渡る と依吉密だよ」と父が優しく教えてくれた。 広いところで80メートルか100メートル ルもあるのか、向こう岸に舟小屋があり誰か 居る。満州人のようだ。とうとう目的地まで 来たのだ。田昇駅に着いた私たちは総勢十三 人でした。田辺六人、池口さん四人、秦野さ ん二人と、遠藤さんの花嫁になる人で、どち らも私には美人に見えた。

その時季節は青草が一斉に冬眠から目覚め る昭和十四年五月十四日の春でした。

きれいな花が草むらからのぞいていた。「あ れが福寿草だよ」と教えてくれた。

どんな所に行くのか不安な心だったが、私 もようやく自然の景色に安心感が湧いた。さ すがに満州は広い。丘がかすかに見えるところ まで三日も汽車に乗ったのだから。

ちようどその時に足元の舟の中から、満州 人の意味の分からない言葉が飛び出した。 父が何か云って、私たちに舟に乗るように

と通訳してくれた。舟小屋のそばに四手網が仕掛けられている。見ると小さな鮎の子が残っていた。父の呼ぶ声に私たちは迎えて来ている馬車に乗った。小さな満馬が五頭も鼻をふくらませて引っ張っている。初めて見る満州の荷馬車の恰好は、おとぎの国の王子さまと云いたいだが、路が悪くて傾いたり浮き上がったたり、一生懸命にしがみつけないと落ちそうで大変だ。

やがて、土で作り上げた高さ3メートルもあるような土塀が見える。周囲に満人の家が連なっている。なんの臭いだろう、嫌な臭いだ。やがて門を入った正面の所が本部だ。皆さんが出迎えて下さった。先遣隊の人達です。

本部を中心に両隣続きが住宅になり、私たちも東側の端に住むようになった。

団長さんのご好意により、教員をしておられた武部さんが先生で、二人に勉強する時間を作って下さった。一人は隣に住む池口重太郎さんの長男で憲嗣君でした。

その間本部は、測量、加工場、建築、食料確保と随分多方面にわたり作業が続き、その内に補充隊の人が来られ賑やかになった。先遣隊の人達は、鳥取・山口・島根の人で、団長と農事指導員の辻村さんと、建築指導員の菊池さんは四国の人だった。

満州は春から初夏にかけて花園に一変する。名前も知れぬ花もまじえ、鈴蘭・百合・芍薬・水仙等が一斉に咲き競い、私たちはのびのびと暮らしていた。

夏は川に名前も知れぬ大魚を獲り、無数にある沼に網を持って、大人たちと女子供も楽しい毎日が、開拓の精神に建設の苦しみ、喜びも共同で分かち合えた毎日でした。やがて北満の半年も続く冬がやってきた。満州の冬将軍はさすが貫禄十分だ。

本部部落前の畠に地下貯蔵庫を作り、野菜確保の仕事を手伝った。人参・大根・白菜・馬鈴薯等だった。なぜか玉葱も里いもも無かった。後で試作したけれども満足なものができなかつたように覚えている。

粉雪の舞う北満の野は寒いより痛い感じだ。その冬の出来事に悲しい思い出がある。匪賊に襲われ犠牲者を出したことだ。池口君と私と二人で、本部より二キロメートル離れた場所に加工場があったので、手伝いに毎日通い、時々泊って帰ることもあった。

加工場では、味噌・醤油・酒などを作っていました。当時私たちは団長さんの部屋で寝泊まりしていた。夜十一時頃不寝番の方角、加工場の方で銃声がしたと報告が入り、すぐ非常警備に全員がついた。しばらく

くすると火の手が上がった。すぐに偵察に三、四人の方が出られた。原さんもその中に居られた様子だった。随分勇気のいることだと思いました。

結果、加工場に居られた、畑野・松井・遠藤さんの三名全員が銃殺に遭われたのだ。また、その冬伐採地でも匪賊の襲撃に遭い二人の戦死者を出し、依吉密開拓団の歴史に暗い影を落とした。

一月一日に、団では最初の結婚式を祝った。ただ、姉たちは父の後の高老連絡所に出たのです。義兄は十四年の十二月末まで待望山で伐採に従事していました。

建設の声高く、やがて部落分散が始まりました。その間学校の生徒も多くなり、第四次開拓団に寄宿して勉強していた私たちも、依吉密小学校が開設されて、寄宿舎もでき、やがて国民学校と命名された。

学校地区に診療所も出来て、警備の方も各部隊から何人かづつ勤務に就かれ、若さ溢れる開拓第二世の声が響くようになり、依吉密開拓団の事業がやつと軌道に乗りつつあったほどなく、第二次世界大戦になり、食料生産に追われるようになり、次々出征して行かれました。その頃の恩師の黒田校長も出征されました。何か周辺が寂しくなり、そして終戦。

続きは次号へ